

市民登山教室「道に迷わないための地図の読み方教室」報告

さいたま市山岳連盟担当 塩谷壽子

募集要項を10月号の「市報さいたま」に掲載し、40名募集したところ、139名という大勢の市民の皆様からご応募がありました。机上講習・実地講習で40名と考えていましたが応募者が多数のため、せめて、机上講習だけでも受講して戴こうと、20名を急遽追加し、実施しました。

講師：奥菌義輝氏（山岳プロガイド）

期日 11月 6日（木）机上講習会 浦和コミュニティセンター 19時～21時

受講者 55名

6日（木）机上講習内容

なぜ山で迷子になるのか

- （1）地図、コンパスを持って行かない。
- （2）地図を見ない。
- （3）地図やコンパスの正しい使い方がわからない。
- （4）思い込み。
- （5）迷ったことが判っても戻らない。

地図やコンパスはなぜ必要か

- （1）現在地の確認
- （2）進行方向の確認
- （3）目標物の確認（山座同定）

登山に使う地図

- （1）国土地理院発行の2万5千分の1地形図
- （2）昭文社などが発行する登山、ハイキング地図

コンパス（磁石）

- （1）プレートコンパス（シルバタイプコンパス）
- （2）レンザチックコンパス
- （3）コンパスグラス

地形図の基礎知識

- （1）全ての地図の基本図
- （2）縮尺2万5千分の1の1cmは実際の距離で250m。4cmは1km。
- （3）山の高さは等高線で表す。細い線は主曲線で高度10m毎に表記。
太い線は計曲線で高度50m毎に表記。
- （4）地図記号は右の整飾欄にある。学校、役所などが記号化されている。
- （5）下の方に方位の西偏度が記入してある。（コンパスの西偏度）
- （6）地図は全て上方向が北である。

プレートコンパスの各部名称

- (1) 磁針
- (2) 回転盤
- (3) 回転盤矢印
- (4) 回転盤目盛り
- (5) 拡大レンズ
- (6) 進行線矢印
- (7) 距離定規

磁北（磁石の北と本当の北）

- (1) コンパスの指す北は本当の北ではない。
- (2) 磁北とはコンパスの指す北方向のこと。
- (3) コンパスの北は本当の北より西に偏った方向を指す。

磁北について

コンパスの指す北は本当の北ではなく、北半球では本当の北より西に偏った方向を指す。本当の北は北極点にあるが、磁北点はハドソン湾にある。日本では偏角の大きさはおよそ5度から10度の間に入っている。北海道で9度、東京では6度、鹿児島では5度くらい。

西偏度数値表

西偏度	0分	10分	20分	30分	40分	50分
3度	0, 052	0, 055	0, 058	0, 061	0, 064	0, 067
4度	0, 070	0, 073	0, 076	0, 079	0, 082	0, 085
5度	0, 087	0, 090	0, 093	0, 096	0, 099	0, 102
6度	0, 105	0, 108	0, 111	0, 114	0, 117	0, 120
7度	0, 123	0, 126	0, 129	0, 132	0, 135	0, 138
8度	0, 141	0, 144	0, 146	0, 149	0, 152	0, 155
9度	0, 158	0, 161	0, 164	0, 167	0, 170	0, 173
10度	0, 176	0, 179	0, 182	0, 185	0, 188	0, 191

計算例 西偏6度のとき南北線を200とした場合 $200 \times 0, 105 = 21$
6度30分のとき $200 \times 0, 114 = 22, 8$

地図の正置（整置）

地図の磁北線とコンパス磁針が並行になるように水平に置くことを言う。

コンパスの持ち方

周囲に磁気の影響が無い事を確認して、コンパスを水平に手のひらに乗せて、進行線と自分の向いている方向を一致させ、脇を締めひじを90度に保つ。

期 日 11月16日(日) 実地講習

東飯能駅(集合:9:00) 飯能市民会館 天覧山登山口 十六羅漢
天覧山山頂(197m) 多峯主山(270.8m) 御岳八幡神社
雨乞池(見返り坂経由) 飯能市民会館 東飯能駅(解散:15:25)
受講者 29名

地図とコンパスの実技講習

1) 出発前の準備(地図の正置)

- (1) コンパスと地図を常時見ることのできる所に携帯する。
- (2) まず自分のいる位置を地図上でチェック。
- (3) 地図の正置。磁北線の活用。
- (4) これから行く方向を確認。出発時間を確認及びメモ。

2) 歩き始めたら

- (1) 周辺の状態を時々地図と見比べながら進む。
- (2) 特徴のある地点までの距離やタイム、方向が地図と符合しているか。
- (3) 距離と高差から歩行タイムを予測する。

3) 分岐に着いたら(進行方向の確認)

- (1) 必ず現在地を地図上で確認。時間の確認とメモ。
- (2) 進行方向をコンパスを使って確認。地図の正置。磁北線の活用。
- (3) 特徴物を地図上でも確認しておく。時間があれば山座同定作業。

4) 山稜上で(現在地確認)

- (1) 顕著なピークや構造物を見つけたら、地図上でもそれをチェックする。
- (2) 地図上で指摘できる相手に向かってコンパスの方向線矢印を向ける。
- (3) コンパスの回転盤矢印を磁針に重ねる。
- (4) 地図上の指摘できる目標をコンパスの上端角に当て、磁北線に(3)の回転盤矢印が並行になるまで回転させる。
- (5) コンパスの長辺に沿って線を引き、自分の歩いてきた道と交差した所が現在地である。道のないところであれば、もう1点目標物を定めて同じ作業を行う。2本の線が交差した所が現在地となる。

5) 山名を知る(山座同定)

- (1) 知りたい山にコンパス進行線矢印を合わせる。
- (2) 磁針に回転盤矢印を重ねる。

- (3) 地図上の現在地にコンパスの下端角を合わせ、回転盤矢印を磁北線と並行になるまで回す。
- (4) コンパスの長編に沿って線を引き、その線上来たピークが知りたい山となる。

(その他)

- ☆ 高圧線が通過している所を地図上で確認しておけば、現在地が明確になる。
- ☆ 高度計を併用して現在地の確認を行う。(視界不良のとき便利)
- ☆ ストレートウォークの活用。(森の中や霧、吹雪など視界不良のときに役立つ)

報 告

○6日は資料に従って講義が進められ、16日の実地講習に使う“地形図 飯能”に“磁北線”を引く作業と地図のたたみ方を実習し解散とする。

○16日は前日から天気予報は“雨”であったが予定通り、実施することとする。金曜日位からキャンセルの電話が相次ぐ、“中止ではないですか?”の問い合わせも。思案の為所であったが、東飯能駅に集合して戴くよう返答する。いよいよ当日、朝から雨・雨・雨。集合時間の1時間前8時に来る参加者、予め知らせてある電車での参加者、9時になっても現れない参加者。電話をかけると、不参加とのこと。11名のキャンセルで結局参加者は29名に激減。

駅ロータリーでまず“地図の正置” 次に市立図書館にコンパスを合わせ、9時35分出発。この時点では雨小降りとなる。図書館の次のポイントは飯能市民会館。トイレタイム。能仁寺脇のハイキングコースに入る。道が三叉路になっている。地図で現在地の確認。今日の最初の目的地“天覧山”の方向を地図とコンパスで確認。十六羅漢経由で山頂へ。天覧山はロッククライマーのゲレンデとなっている場所で、地図上で“岩”の記号確認できる。雨はすっかり上がる。11時15分と早かったが昼食。展望が利かないので、目の前に見える“校庭”“建物”を山に見立て山座同定の実習。第2目的地“多峯主山”へ向かう。数回現在地確認を繰り返しながら。地図上の等高線と地形の比較等々。多峯主山、三角点確認。山頂では山座同定。下って、御岳八幡神社へ。この地も“岩”確認できる。当初予定が、東飯能駅15時解散のため、帰りは見返り坂経由で飯能市民会館へ、行きに準備体操をしなかったので、トイレタイムの間にクールダウン。15時25分、若干遅れたもののたいした雨にも会わず無事終了。東飯能駅で解散。

初めての实地講習で中身も濃く、参加者のレベルもばらばらでどの程度体得出来たかは定かではないが、繰り返しこのような“教室”を開催する事で、“道迷い”をするハイカー・登山者がひとりでも減るよう、また次回を企画しています。